# まなざし

Vol.4
2024.07

## 5万点のフィルムが語る阿智村

上　サトイモの露を集める　1955(S30) 年阿智村中関
下　七夕飾りは川に流した　1960(S35) 年阿智村駒場

上　笹に飾りを付ける　1960(S35) 年駒場
下　サトイモの露で墨をすり、短冊を書く
短冊は紙ではなく経木　1960(S35) 年駒場

最終答申の提出　2024 年 5 月 30 日

2023 年 6 月、阿智村から「農村記録写真の村」に関する諮問を受けた全村博物館構想企画委員会は、このことに関する検討委員会を設置しました。検討委員会では熊谷元一写真の今後の保存活用について 1 年間かけて話し合ってきました。その成果を答申としてまとめ、5 月 30 日、全村博物館構想企画委員会が最終答申を村へ提出しました。

最終答申の概要は 2,3 面に掲載しています→

まなざし　Vol.4　　発行日：2024 年 7 月 19 日
作成・発行：農村記録写真の村・熊谷元一写真あり方検討委員会
事務局　　：阿智村役場　協働活動推進課　TEL0265-43-2220　kyodo@vill.achi.lg.jp

## 元一写真の保存 これまで

童画館スタッフに聞きました！

元一先生の写真は約 5 万点を 1 枚ずつ、スキャンしデジタル化したんだ。撮影場所、何を写した写真かを検索できるようにしてある。

元一先生から送られてきたネガには写真の説明が書いてあった。でも中には書いていないのもあって、東京の元一先生に聞きに行ったんだよ。

月曜日に東京に行って、午後から先生の家で写真を見てもらい、何の写真か教えてもらったよ。たいていの写真はすぐ何の写真かわかったけど、中にはわからないものもあった。そんな時は 2 F にあがって日記帳を見てくるんだ。1 枚に 1 時間かかるときもあったね。

月曜日から金曜日まで東京に滞在して毎日先生の家に行き、金曜の午後に阿智村に帰ってくるんだ。それを計 14 回、70 日やった。そうやって元一先生の写真を検索して使えるようにできたんだ。

**撮影年**　1960(S35) 年 10 月 20 日
**撮影場所** 浪合寒原
**説　明**　キンマ（大型のそり）に伐採した木材を積み、牛に引かせて山から下ろす。

↑こうした説明が写真一枚一枚についています（月日がわかるのは稀）

## 写真 de 大喜利

セリフを考えることで、より写真の魅力を感じてもらおうと 2024 年 2 月発行の第 2 号で募集しました。メール応募、写真展会場で書いていただいたものから 4 点をご紹介します。

**編集後記：** 1～4 号までご覧いただきありがとうございました。いろんな方から元一について話をお聞きし、様々な元一の姿を知ることができました。「このまなざし」を通じて、元一を知ってもらうとともに、元一写真の価値を、多く人と共有できたらとつくってきました。元一写真が私たちの暮らしについて考えるきっかけとなり、人と人とのつながりができていけば嬉しいです。今後も元一写真の活用についてみなさんと考えていけたらと思います。（担当：徐芙美子、田中真美　事務局：大石真紀子）

# 農村記録写真の村　最終答申（概要）

## Point 1　未来へつなげる意義

約 70 年、一つの村を記録した写真は他に類をみません。また暮らしを記録しようとした元一の生き方から私たちは多くを学ぶことができます。
私たちは元一写真を通して、村の歴史や暮らしのあり方や地域の未来、さらにはそれぞれの生き方を考えることができます。地域において必要な学びの要素が元一にはあります。これを村の財産として大事にし活用し続けることは、地域で豊かに暮らすための大きな力になると考えます。

### 1．地域文化として

元一を通して地域を考えるような、村民が集うコミュニティを機能させることが重要です。記録写真を通して人と人がつながり、地域や自分たちのありようについて考え、取り組むことで、元一写真は「懐かしい」だけでなく、阿智村の地域文化と、暮らしの質を考える地域資源となります。

### 2．観光資源として

今後の観光は、世界からの来訪者が地域の人たちの日常に目を向け、体験、交流する形が主力になります。日常に根ざした地域文化としての元一写真の使い方・あり方を追求することが、結果的に観光客にとって魅力的な場所となっていきます。

### 参考　田淵行男記念館（安曇野）

安曇野市にある田淵行男記念館は山岳写真家・蝶の細密画家として活躍した田淵行男の作品を展示しています。学校教育で活用される地域施設でもあり、観光施設でもあります。

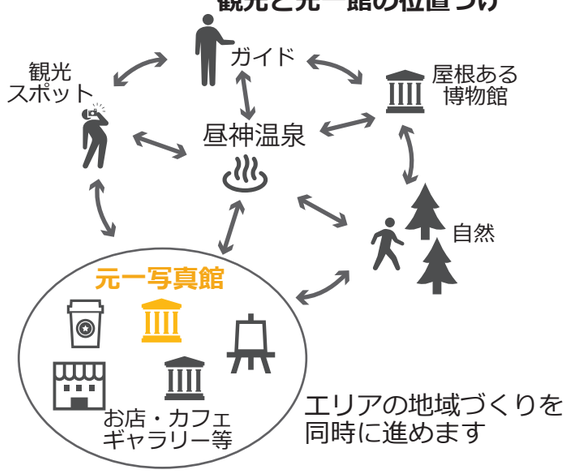
**地域文化** ←― 田淵行男記念館の取組み ―→ **観光**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 市内の小学校の学習で活用。見学に来たり、出張授業をしたり。 | 虫の会があり、観察会などを実施。毎年、虫好き小学生が入会。 | 現代の写真家の企画展を定期開催。写真好きが集まる場所に。 | 安曇野に観光に訪れた人が立ち寄る観光スポットの１つ。 |

## Point 2　熊谷元一写真童画館の移転計画

コミュニティの形成と、これからの観光に対応した元一館を実現するためには、**昼神温泉郷以外への元一館移転が適切**です。
移転先は元一館単独での集客ではなく、地区としての集客が可能なエリアが最適です。周囲の店舗やギャラリー、他の全村博物館構想関連施設など、複数の要素を組み合わせたエリアとしての集客を考える必要があります。移転先となる地域の理解も欠かせません。その地区の地域づくりも、元一館建設と同時に取り組む必要があります。そういった取組みが可能な地域に設置をすることを強く提案します。

**全村博物館構想における**
**観光と元一館の位置づけ**




## Point 3　これからの元一写真の活用目標

### 1　人材育成

元一に関する取組みを担う組織を設置し、企画ができる人材を複数人育成します。また取組みの核を担う人を雇用・育成します。村はそのために必要な人員体制と予算を確保します。

事業
・組織づくり
・専門スタッフの雇用

### 2　ネガフィルムの再デジタル化

写真フィルムの保存環境を改善します。また専門家からは現存のデジタルデータよりも高精細データが必要と指摘されており、早急に再デジタル化します。

事業
・ネガフィルムの保存環境改善
・高精細デジタル化

### 3　写真の活用と記憶継承

元一写真に関わるソフト事業を多彩に実施します。記録写真を用いた教育プログラムを研究・実施します。阿智村の写真を収集・保存します。写真賞コンクールを通して全国に記録写真を普及させます。

事業
・学校教育での活用
・個人が所有する記録写真の収集・保存
・現在の阿智村を撮影するイベント
・写真賞コンクールの実施

### 4　情報発信の環境整備と体制づくり

元一に関する総合的な情報を掲載する Web サイト、SNS により情報を発信します。また並行して Web 上での写真展示や海外も見据えた情報発信の方法について研究を行います。

事業
・ポータルサイトの構築
・SNS による情報発信
・新たな情報発信の方法研究

### 5　展示・フォーラム

元一を多くの人に知ってもらうため、県内各地、大都市での写真展を行います。また写真の理解を深めるための解説、対話が広がるような企画との組み合わせなど、より効果的な展示企画を研究します。

事業
・元一写真村外展示の定期開催
・展示解説の研究
・写真の理解を深める対話・解説の研究

### 6　熊谷元一研究の集約

元一写真に写る場所や風習、地域史等の研究、元一自身に関する研究を進めます。また村外の専門家による研究成果を蓄積するとともに、共有できる機会を設けます。

事業
・元一研究の推進
・研究成果を共有する場の設置

### UNESCO 世界の記憶

元一写真は「世界の記憶（世界記憶遺産）」への登録の可能性 が有識者から指摘されています。認定されれば観光において大きな求心力を持ちます。認定に向けた取組みを進めたいと考えます。

「世界の記憶」は写真や絵画、文書などの記録物のうち、世界的に重要な物を登録する制度です。

これまで国内で登録されたもの（一部）
・山本作兵衛氏の　炭鉱の記録画・文書
・シベリア抑留等日本人の引き上げの記録